

# 植物園人生を振り返って

高 林 成 年

本日はありがとうございました。

園芸化される前の珍しい植物をいろいろ集めてきましたので、京都植物園のアピールを兼ねて、植物のスライドを見ながらお話をしてみたいです。

**Adansonia digitata** (17:30、18:00、18:54、19:20、19:35、19:50、翌8:30、10:00) セネガルから来たバオバブの木です。夜咲くので開花はなかなか見られません。夕方5:30は蕾、約2時間で満開になりました。時間系列で見てください。熱帯の植物は、開花はしますがなかなか結実するまでは行きません。

**Aphelandra chamissoniana** (イエロー・パゴダ) 30年近く前ブラジルから導入。

**Aphelandra sinclairiana** 中米の原産ですが、25年位前にハワイから導入。

**Aristolochia veraguensis** 花にきれいな網目模様が入る。幹が肥大化し、幹の元のほうに花が群生。

**Aristolochia gigantea** 京都植物園が一番早く導入。蕾も面白いし、花が大きく鉢物でもよく咲きます。

**Asystasia** 属は、最近園芸鉢物で出回っています。草本ですから繁殖しやすく、周年花が咲き、利用価値があります。**Asystasia gangetica** 花色に変化が多く、沖縄では露地植え。**Asystasia intrusa** 植物園には20年近く前から。今年近くのスーパーで売られていました。**Asystasia scandens** は京都植物園のみ。

**Brillantaisia patula** 園芸界の流通には乗りませんが観賞価値があります。温室では花穂40cm、草丈2mほどです。

**Calathea crotalifera** ハワイから導入。生育場所により花色が異なります。本来は葉を楽しみますが、これは切花として利用価値があり、輸入切花として入って来るかもしれません。

**Callidandra emerginata** シンガポール、マレーシアから導入。花がコンパクトにまとまるので、小型の鉢物として日の目を見せたいと思っています。

**Campanula vidalii** (**Azorina vidalii**) 乾燥したところで育つ、風変わりな多肉小型植物。

**Chirita linearifolia** 富樫マコト氏がヒマラヤから導入、新宿御苑から小さな枝をもらって育てました。

**Chirita linearifolia** × **sinensis** 葉が大きく、花付きよく、丈夫で作りやすい。無暖房でも栽培可能。

**Cochliostema odoratissimum** ツククサ科で最

大。鮮やかな紫色で使い道が多いと思います。

**Couroupita guianensis** キャノンボールツリー。

**Crossandra pungens** 花色は数色、花つきがよく、丈夫で、コンパクト。小型草花としてよい。

**Echium wildpretii** 1980年導入。ヨーロッパの植物園で種子を頂いてきました。栽培体系を確立し、二年草として扱っています。背丈を越すほど大きくなるので、大型のイベント花壇に使いたものです。

**Echium wildpretii** 変異が出ます。花がたくさん咲き、種子は室温でも3~4年寿命があります。日本の春の花壇向きで、葉は銀葉で冬花壇を飾ります。いいものが利用されず、忘れ去られています。

**Echium candicans** 日本では大きな花穂に育たず、きれいなブルーにもなりません。

**Eremomastax polysperma** キツネノマゴ科。日本の花の中にはなかった姿です。

**Geranium maderense** ゼラニウム属の世界最大。栽培スケジュールを組めばイベントでも利用できます。

**Justicia aurea** 夏からがよい。

**Mandevilla venusta** 日本ではつる性ということが人気ですが、マンデヴィラ属は花の色合いに変化があり面白いものです。

**Pseuderanthemum tuberculatum** この属の中では唯一、木ではなく草本です。

**Welwitsia mirabilis** (奇想天外) 1970年に種を蒔き、19年目に花が咲きました。花序は8cmくらい。種子もたくさんできました。

最後に、植物園の現在を見てほしいと思います。日本の植物園は非常な危機に面しています。特定管理者制度の推進で、官から民へ移行されようとしています。行政の方針として、開かれた植物園にし、投資効果を考えよともいわれ、収益を上げるための努力が要求されます。

行政のトップは長い目で見、園芸文化(人間性)を高めるための植物園の役割を考えてほしいと思います。植物園は短期的に見ると閉鎖的ですが、かたくなに植物を守る施設があってもよいのではないのでしょうか。長い目で見ると必要な施設であり、園芸界のためにもなると思います。植物園がなくなるということがないように、運営を考えてほしいのです。今後も植物園に目を向けて行きます。 (文責：編集部)